

新型コロナウイルス感染防止に対する具体的対策について

厚生労働省認可環四二七号

全日本ホテル旅館協同組合 理事長 金沢孝晃

世界中が新型コロナウイルス感染拡大に振り回されたこの一年です。

この間、私を感じ、実行してきた感染防止対策を此処に記すとともに、当組合を内外に支えて頂いた多くの方々に感謝申し上げます。

この一年数か月の間、新型コロナウイルスが全世界規模の感染拡大を続け、多くの人命が失われ、経済その他あらゆる面においても未曾有の悪影響を与え、世界中を重篤なストレス社会に落とし込んでいます。

現在、ワクチンが開発され、既に世界各地で接種が始まっていますが、全世界で必要とされる人に接種を済ませるには、まだ二年程度の歳月は必要だと推測されます。

この新型コロナウイルスの感染防止方法について、国や、地方行政、医学界において、「手洗い*マスク着用*三密の防止*不要不急の外出禁止」と常套句を並べるだけであり、緊急事態宣言や蔓延防止等の発令においても、飲食店の時短営業を決める事位だけで、マスクも感染状況の結果報道ばかりが目立ち、感染防止につながる報道が全く少ない事に、提言をするものであります。

感染対策の重要項目実施方法

*マスクの着用（人に移さない、人から移されない両面効果）

マスク着用の留意点

上部に針金が入っているウイルス対応の市販用マスクを毎日交換。

着用は鼻と口を完全に隠し、鼻とマスクとの間で隙間が出ないように針金をしっかりと曲げて抑え込み、あご下迄着用する。

マスクが下にずれる時は耳上のひもを手で後ろにずらして上げ、マスク表面を絶対に触らないようにする。

予備を必ずカバンやバッグなどの身近なところに入れておく。

食事の時と飲み物をとるとき以外は近くに人が一人でもいれば必ずマスク着用する。

マスク着用時でも大声で話したり笑ったりしない。飛沫が漏れる可能性がある

咳やくしゃみをする時はマスクをしていても必ず両手で口を押え下向きか、人のいない方向にする。

食事をする時に高さ(60cm以上)と幅(一人60cm以上)のアクリル板で前と左右が一人ずつ完全に仕切れていればマスクを外す事が可能だがそれでも大声でしゃべったり笑ったり絶対しない。(特に飲酒時に男女区別なく大声になる事が最も危険である。)

アクリル板がない食事処での会話は必ずマスク着用とし、マスクを外した食事中は一切会話をしないとすることが感染拡大防止の最も重要な部分である。

*これらの正しいマスク着用と小まめな手指の消毒が感染防止の大前提であり、国民の命と財産を守る最大の武器であり必須条件である。

緊急事態宣言や蔓延防止対策への提言

緊急事態宣言で営業時間を午後八時迄、四人迄の会食OKは大きな間違いである。

三〜四人連れでアクリル板もない飲食店で連日満席となる大型店舗(回転すし・スローその他)があるがこの状態であれば五十人や百人規模の宴会と何ら変わらず、人気のある飲食店では日常の事である。

(食事中心の大型店舗でクラスターが発生したという事は聞かない。)

また営業時間を午後八時迄と短くした事でさらに午後七時前後には待合室まですし詰め状態となっている事が良くある。

この状態が問題とされず、五人以上の会食を禁止とする事は全く意味をなさない。

五人以上での飲食全面禁止が国民を委縮させ、まさしく経済が回らない最も大きな要因となっている。

感染防止留意点

*手指の消毒 (アルコール消毒液が最も使いやすい)

自分専用の消毒液入り小型容器を衣服のポケットかバッグの中に入れ、人が触れた可能性がある物を触れば、顔に手が触れる前に必ずそのつど手を消毒し容器の表面も消毒する。

(商品把手・スイッチ類・手摺・テーブル・食器・金銭等あらゆる物品)

*三密防止に対する提言

密閉 密集 密接を避ける事に対し、政府や行政からの具体的な説明が不足している。

ただ人が集まるのをやめろと言っているだけで、国民を必要以上に委縮させストレス社会を生んでいる。

国民は感染防止をどこまでやれば迷いながらも真摯にやっているが一部の人が飲酒を伴った会食の場でマスクを外して大声で笑ったりしゃべったりしており、この事が感染拡大防止に歯止めがかからない最大要因である。

政府、行政は社会に対し現実的で実効出来る具体的な感染防止方法を定め、マスクミを使うなどして国民に、特に若い人に徹底した指導をすべきである。

彼らも感染すれば重症化や、死亡(二十八歳の相撲取)もある事、そして親や周囲の人に自分が感染させ死亡させたら、一生その事を引きずって生きていかなければならない事を頭に叩き込ませなければならぬ。特に英国型変異コロナウイルスは、若い人も重症化リスクが高い事をあらゆる手段を使って若い人達にこの事を広報しなくてはならない。

マスクミは感染の結果報道に大半の時間を費やしているがコロナを怖がらない若い世代にコロナは怖いものであると言う認識を持たす事に全力を尽くすべきであり、この事が感染拡大防止対策の最重要部分である。

スポーツ選手たちが感染しても重症化せず、すぐ現場に戻ったと言う報道がよくあるが、こういう報道が再々流れると若い人にとってコロナは全く怖くないという事になりこれでは自粛のしようがなくなる。

若い世代の飲酒を伴った飲食時の飛沫感染が新型コロナウイルスの感染拡大の最大原因である事に集中して上記の徹底した対策を取るべきである。

密閉 その度合いにもよるが朝夕の出退勤時間の密閉された電車やバスの車中においてクラスターが発生したと言う報告はない。路線にもよるが体が触れ合う状況であってもマスクを外さず会話を控えたら感染防止は十分に可能である。

密集 前述の電車やバスの密閉された車中においてもマスク着用で会話を控えれば、感染防止が可能である。

ただ人が密集しただけであれば密閉空間と同じくマスク着用で、会話をひかえれば人が密集しただけで感染する可能性は低い。

密接 大阪府立国際がんセンター採血室で10人位の看護師さんが、毎日一人で二、三十人の採血を行なっている。

その間に看護師が採血者の名前を聞き、腕にゴムバンドを巻き、消毒をし、顔が触れるような至近距離で採血し最後に止血用テープを張るが、その間に十通り位の会話をしているが互いのマスク着用で看護師さん採血者が感染したという事は聞かない。

スーパ一等のレジ係も一日相当数のレジを至近距離で扱うがコロナ感染があったとは聞かない、官庁や行政の職員たちもアクリル板もない横並びの密接した机で職責を果たしているが職場で感染したと言う報告はない。

以上の事を踏まえれば三密の状態であっても全員がマスク着用し、大声での会話を控え、手が顔に触れる前にアルコール消毒を徹底していれば感染防止は可能である。

またその状態で感染防止が可能であればスポーツ観戦や集会場の催し物、府県をまたぐ移動、旅行等も可能となり、国民のストレスは大きく改善されると考えられる。

つまり三密防止が感染拡大に最も重要である考えは必ずしも正しいとは言えず、この三密防止が経済停滞を招き、社会に大きなストレスを与えている事は間違いない。

マスクを外した時の飛沫感染が感染拡大の最もたる要因であるのは間違いない、この飛沫感染の抑制方法としてアクリル板の設置が最も有効となる。

*アクリル板間仕切り板

飲酒時や食事場所での設置方法とその寸法

私のほうで経営している山代温泉にある旅館でコロナ禍の昨年前半に八百人分の間仕切り板を準備し、後半に二百人から五百人近い団体の宴会(宿泊共)を十数回対応。

宴会場となる食事処で一人一人をアクリル板で完全に間仕切った事で全員がマスクをとり安心して食事をし、その後マスクを着け舞台での演劇を楽しんだ。

アクリル板がある事でかえって自覚され大きな声を出す事もなく無事に終えた。

最近になって一部の飲食店でアクリル板を見かけるようになったが正しく設置されているのは殆どなく意味をなしていない。

正しく設置されればアクリル板が経済復活の切り札である事は間違いないと考える。

蔓延防止対策に「四人まで」という記述の根拠は、恐らくは「四隅」+一人になった時に、その五人目と反対側との相対距離が開くので、大声を出す必要がある。飛沫感染が発生しやすいという図式だと理解しているが、アクリル板があると、そういった危険も回避できる。政府や行政はアクリル板設置の設置方法を正しく指導広報し、設置費用を全額支援しても

時短営業の補償金と比較すれば比較にならない安い費用で出来るものである。

飲食店においてお客さんは酒が入ると声が大きくなってくるが店舗で手持ちのプラカード看板を作り「大声での会話はコロナ感染拡大防止中につき誠に恐れ入りますがご遠慮下さるようお願い申し上げます」の文面を入れ、頭を下げながらお客さんの顔を見ないで見せてお願いをするなどして酔客を怒らせず静かにしてもらう方法も考える必要がある。

ストレス社会の中、あまり感染防止効果のない外出禁止をむやみに出さず、時短営業はアクリル板を設置する事で通常営業に戻し、正確なマスク着用が自分と家族の命を守る事になり経済復活のキーポイントになる事を政府、行政が国民に再三にわたって厳しく広報指導してもらいたいと願うものである。

*今まさしく待ちにまったワクチン接種が世界で始まったがこのワクチン効果で全世界においてこのコロナウイルスの終息を迎える日が一日でも早く来る事を心より願うばかりです。